

# 第3次みわ地域まちづくりビジョン

(計画期間：令和4年度～令和8年度)



令和4年3月

三和町自治連合会

## 目 次

ごあいさつ .....	1
I. 三和町の現状と課題 .....	2
1. 三和町の概況 .....	2
2. 三和町の人口 .....	3
II. みわ地域のまちづくり ～基本理念と3つの「元気」～.....	4
III. 第3次みわ地域まちづくりビジョン .....	6
1. ビジョンの基本理念と目指す地域像.....	6
2. 第3次みわ地域まちづくりビジョン概要 .....	7
3. 今後5か年で取り組むビジョン内容.....	8
4. 実施・推進体制（案） .....	11
IV. ビジョン策定のプロセス.....	12
1. 策定委員会 .....	12
2. ヒアリング調査 .....	14
3. 小・中学校アンケート調査 .....	16
V. 三和町自治連合会組織図.....	18
1. 三和町自治連合会組織図 .....	18



## ごあいさつ

三和町自治連合会は、令和4（2022）年3月、第3次の「みわ地域まちづくりビジョン」を策定しました。

このビジョンの根幹は、平成16（2004）年4月三次市との合併後、平成18（2006）年3月策定の「みわ地域まちづくりビジョン」に謳われている「安全で安心して住み続けることが出来る地域」の構築のため「こころが元気」「人が元気」「地域が元気」の3つのアプローチから地域づくりをしていこうとの基本方針を引き継いでおります。

当時（平成17（2005）年12月末）は、世帯1,388戸、人口3,703人、65歳以上の高齢化率40.0%でしたが、それが今や（令和3（2021）年12月末）、1,267戸、2,580人、高齢化率51.6%となり、予想を上回るスピードで、少子・高齢化、過疎化が進んでおります。今も色々と対策を講じてはいますが、それでも10年後の2031年には、人口2,084人、高齢化率は55.4%との厳しい予想もあります。この大きな時代の流れを食い止めることは困難を伴うこととは思いますが、少なくとも世帯の減少にブレーキを掛けつつ、取巻く与件を現実として受止め、世帯＝世代の継続的な循環の確保により、地域・集落が消滅するような事態は防がなくてはなりません。

この1年間、策定委員による会議、小・中学生へのアンケート、住民の方へのヒアリング等を実施して、地域が持続するためのビジョンを策定しました。

さて、ビジョンは完成しましたが、実践されなければ「画餅に帰す」となります。

三和町自治連合会は、まちづくりを実行推進する中核組織の一つではありますが、まちづくりの基本は「住民による、住民のためのまちづくり」にありますので、皆様ご自身が実践の担い手であります。動かなければ何も変わらず、不安も解消されません。

子どもからお年寄りまで全ての住民の方が、安心、安全、生きがいを持って生活できる三和町を作るため、ご自身で楽しく持続的に活動できる「まちづくり活動」に参加されますようお願い申し上げます。

三和町自治連合会  
会長 竹川 易廣

## I. 三和町の現状と課題

### 1. 三和町の概況

#### ①地勢

三次市三和町は広島県のほぼ中央に位置し、三次市の最南部にあります。東は世羅町、南は東広島市豊栄町、西は安芸高田市甲田町、同市向原町が隣接しています。標高は320メートル前後の比較的ゆるやかな傾斜度であり、中国山地沿いとしては、冬は比較的暖かく、夏は涼しく過ごしやすい純農村地帯です。

#### ②自然

瀬戸内海に注ぐ三篠川水系と日本海に注ぐ江の川水系の分水嶺ともなっており、大土山などの山なみを源とする今出原川、大力谷川などが北流して板木川となり、江の川（可愛川）に注いでいます。東部には町を東西に分けるように美波羅川が流れ、馬洗川へ合流しています。

#### ③沿革

明治22（1889）年の町村制施行により、三次郡5か村の上板木、大力谷、羽出庭、下板木、福田の各村を合併して双三郡板木村を設置。世羅郡上壺、飯田2か村が合併して上田村となり、後に上山村と改めました。同じく世羅郡敷名、上津田、下津田、長田の4か村を合併して津名村となりました。

昭和30（1955）年3月31日に、上山村、津名村大字敷名、板木村が合併し双三郡三和町となりました。さらに、同年11月3日双三郡川西村大字大笹及び坂井田を、続いて昭和33（1958）年4月1日に三次市有原町長谷を編入合併し現在の三和町となりました。

平成16（2004）年4月に三次市、双三郡（3町3村）、甲奴郡甲奴町と合併し、現在の三次市としてスタートしています。

#### ④産業・経済

産業基盤は農業で、町内には6つの農事組合法人が組織されています。農業は水稻が中心で「酒米」の生産地として有名です。酪農・グリーンアスパラガス・ヨーグルト・やきごめ・日本酒・ジビエの生産地としても知られています。

#### ⑤文化・観光

平成8年（1996）11月完成の「みわ文化センター」では、質の高い芸術文化の鑑賞や図書館利用など、多くの方に好評を得ています。田舎芝居・琉球國祭り太鼓・信原田楽・

文化連盟加入団体の活動も活発に行われており、文化の伝承と芸術の発展が図られています。

観光は、宿泊施設「広島ふるさと村」・美波羅川の千本桜・照円寺の孔雀松・物産館みわ375を中心に多くの方に訪れていただいています。

## 2. 三和町の人口

人口は、2,580人（令和4（2022）年1月1日現在）であり、「上山振興区」、「敷名振興区」、「板木振興区」、「下板木コミュニティー」の4つの振興区からなる「三和町自治連合会」を組織し、まちづくり推進活動を行なっています。

第2期ビジョン推進計画において、三和町の人口減少が急速に進行していることを指摘していました。当時、平成16年と平成27年の数字を比較して、世帯数、人口、高齢化率について下表のように整理され、三和町の人口を取り巻く状況について危機感を持って計画策定されました。

	平成16（2004）年	平成27（2015）年
世帯数	1,392世帯	1,319世帯
人口	3,798人	3,031人
高齢化率	39.7%	46.7%

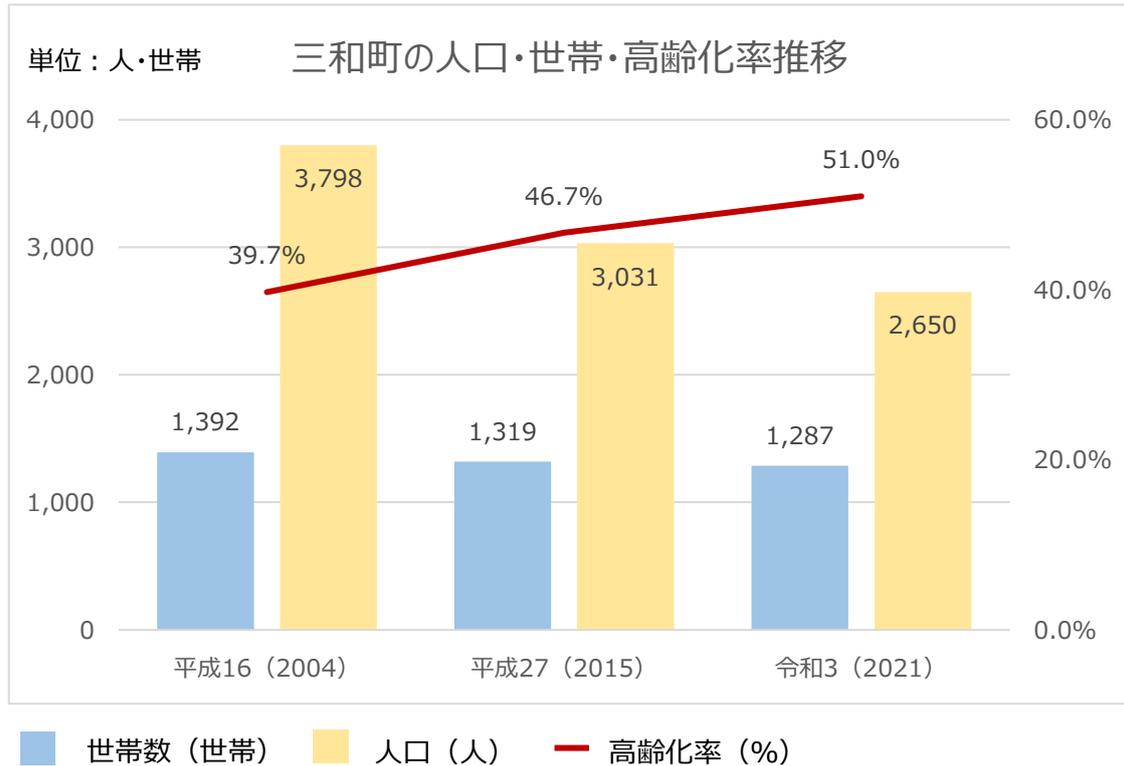
各年4月1日現在（前月末日集計）

では、現在に目を移すとどうでしょうか。

平成27年から6年ほどが経過した現在、世帯数、人口はともにさらに減少しており、高齢化率は50%を上回る状況になっています。

	平成27（2015）年	令和3（2021）年	増減数（率）
世帯数	1,319世帯	1,287世帯	32世帯減（▲2.4%）
人口	3,031人	2,650人	381人減（▲12.6%）
高齢化率	46.7%	51.0%	4.3%

各年4月1日現在（前月末日集計）



## Ⅱ. みわ地域のまちづくり ～基本理念と3つの「元気」～

第1次みわ地域まちづくりビジョン推進計画(計画期間:平成24(2012)年度～28(2016)年度)、第2次みわ地域まちづくりビジョン推進計画(計画期間:平成28(2016)～32(2020)年度)において、まちづくりの基本理念を「安全で安心して住み続けることができる地域」と決めました。そして、この基本理念を達成するために3つの“元気”をキーワードとして取り組んできました。

今回策定した第3次みわ地域まちづくりビジョン(計画期間:令和4(2022)年度～8(2026)年度)においても、基本理念と3つの“元気”は継承しています。

また、第1次、第2次ビジョンでの実施状況と社会状況の変化に鑑み、本ビジョンでは今後のみわ地域のあり方を今この時から模索する内容となっています。

本ビジョンで示した内容を具体的に実現、推進するためには、さらに具体的な検討・実施体制が個々に必要となってきますが、本ビジョンで定めた考え方をベースに検討・実施することで、ブレずに取り組むことができるものと考えます。

図 みわ地域のまちづくり基本理念と3つの元気

## みわ地域のまちづくりの基本理念

安全で安心して住み続けることができる地域



## 3つの元気をつくろう！

こころ  
が元気

人が  
元気

地域が  
元気



### Ⅲ. 第3次みわ地域まちづくりビジョン

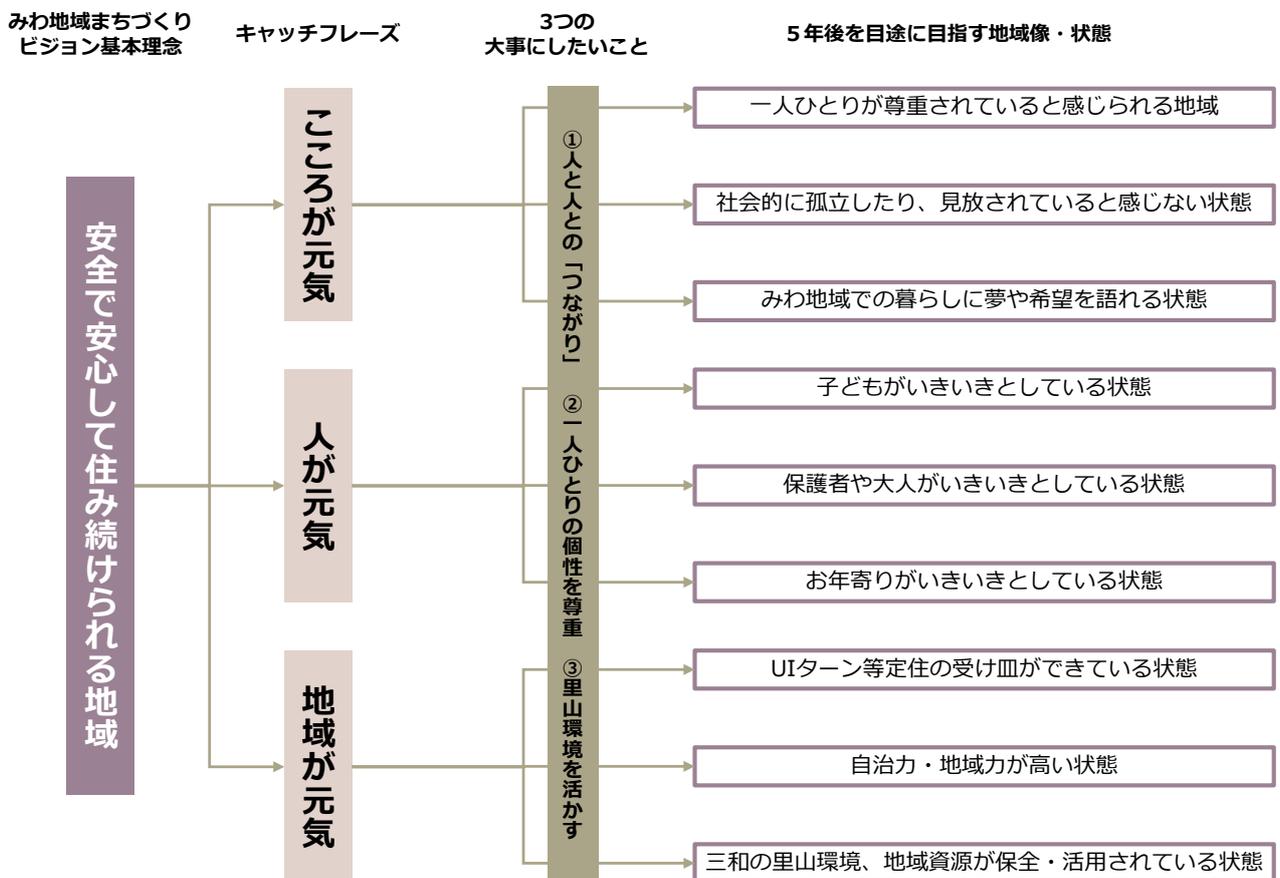
#### 1. ビジョンの基本理念と目指す地域像

本ビジョンで基本理念に基づき目指す将来像は下図のとおりです。まちづくりビジョンの基本理念およびキャッチフレーズは、これまでのものを継続します。

これまでの基盤の上に、今回の策定委員会を通じて得られた視点、大事にしたいこととして3つの視点を加えています。今回得られた3つの“大事にしたいこと”とは「人と人との『つながり』」、「一人ひとりの個性を尊重」、「里山環境を活かす」という視点です。

「5年後を目途に目指す地域像・状態」では、近い将来、どのような地域になっていれば「こころ」「人」「地域」それぞれが元気になったと判断できるのかをわかりやすく明文化しました。私達が今後取り組む、多様な活動・事業は基本的に、ここで示した地域像に向かうためのものとなります。

図 基本理念・3つの元気を踏まえた第3次みわ地域まちづくりビジョンで大切にする視点



## 2. 第3次みわ地域まちづくりビジョン概要

これまでの策定委員会を通じて、みわ地域におけるまちづくりの基本理念を実現していくために必要と考える5つのプログラム、17のプロジェクトを掲げました。

	実現に向かう5つのプログラム	目的と主な対象	プログラムを構成する17のプロジェクト
こころが元気	<p><b>I. 誰もが尊重されていて、不安を感じずにいられる地域にしよう</b></p> <p>社会的孤立、疎外感を感じない、誰もが誰かとつながっている、認められている地域へ。</p>	<p>目的：独居・老老介護、感染症、ハンディキャップ、経済困窮、不登校・引きこもり等不安要素が多い今、三和では他者から尊重されていると感じられるように。</p> <p>主な対象：弱い立場に立たされている人</p>	<p>①見守り活動の仕組み強化 ②防災等非常時の支え合いの環境づくり ③誰もが知り合い、属性を超えた相互理解</p>
人が元気	<p><b>II. 子どもからお年寄りまで、誰もがいきいきできる町にしよう</b></p> <p>子ども、若者、保護者、壮年、お年寄りまで、いきいきと暮らすことができる地域へ。</p>	<p>目的：特定の人だけがいきいきするのではなく、三和で暮らす誰もが幸福を感じられるように。</p> <p>主な対象：三和町民</p>	<p>④三和の自然講習・生き物調査等実施 ⑤誰もが楽しく集まれる機会の創出 ⑥人材クラウドファンディング制度の確立 ⑦地域と教育の連携・交流促進</p>
	<p><b>III. 移住者が溶け込みやすく、選んで良かったと思える町にしよう</b></p> <p>三和に可能性を感じて来る移住者を快く受け入れ、温かい地域づくりを。</p>	<p>目的：地方を自ら選択し移住する人が増えている。縁あって三和を選択した移住者が「良かった」と思える、知り合いを呼べる地域のあり方を。</p> <p>主な対象：移住者・応援隊</p>	<p>⑧空き家対策の一層の推進 ⑨定住希望者の受け皿づくり ⑩三和の教科書づくり</p>
地域が元気	<p><b>IV. 10年先を見据えた「地域のカタチ」を考え、作っていこう</b></p> <p>地域力を高め、暮らしを支える仕組みを検討し、まず変革する一歩を。</p>	<p>目的：常会・地域の小規模化がさらに進むことを想定し、次の10年、20年と無理なく続けられる新たな「三和のカタチ」をソウゾウする。中の論理だけでなく外部の力を活かすカタチを。</p> <p>主な対象：各種団体の役付き、応援隊</p>	<p>⑪青年団・青年部等若者コミュニティづくり ⑫新しい地域運営のあり方検討開始 ⑬三和地域ネットワーク協議会の活用・強化 ⑭三和ふるさと応援隊との連携進化 ⑮HP更新、情報発信</p>
	<p><b>V. 三和固有の自然・文化を守り、伝えよう</b></p> <p>三和の自然や文化等地域の資源を守り、活用へ。</p>	<p>目的：三和固有の資源を守り、伝えることができる仕組みを作る。人口減少が進む中でも継続できる仕組みを検討する。</p> <p>主な対象：自然資源・文化資源</p>	<p>⑯三和の暮らしの技の伝承 ⑰地域資源の維持・活用を市民参加型イベント等で実施</p>

### 3. 今後5か年で取り組むビジョン内容

#### (1) 「こころが元気」につながるプログラム

「こころが元気」につながるプログラムとして1つのプログラム、3つのプロジェクトを計画します。

<b>対応する キャッチフレーズ</b>	こころが元気		
<b>目的</b>	独居・老老介護、感染症、ハンディキャップ、 経済困窮、不登校・引きこもり等不安要素が 多い今、三和では他者から尊重されていると 感じられるように。	<b>主な対象者</b>	弱い立場に立たされている人
<b>プログラム</b>			
<b>I. 誰もが尊重されていて、不安を感じずにいられる地域にしよう</b> 社会的孤立、疎外感を感じない、誰もが誰かとつながっている、認められている地域へ。			
<b>プロジェクト</b>			
①見守り活動の仕組み強化	高齢者独居世帯や高齢者のみの世帯、ハンディキャップを抱えている人など 多様な不安を抱えている世帯を地域で見守る体制と仕組みを強化。 最初の一手：見守りが求められる現状と課題整理、既存団体のリストアップ		
②防災等非常時の支え合いの環境づくり ★	近年の短時間豪雨による局所的な災害発生増大等自然災害への対応として、 防災等の非常時に支え合えるような環境づくり。 最初の一手：関係団体でまずは一度、協議		
③誰もが知り合い、属性を超えた相互理解 ★	誰もが気軽に集まれる場を作る。楽しい話ができる場でも、悩みを吐露する 場でも良い。誰にも否定されない安心して話をできる空間を作る。 最初の一手：集まるテーマのリストアップ		

★ 自治連合会主体で実施が可能と見込まれるプロジェクト

★ 自治連合会が関係団体等をつなぐことで間接的に支援できると見込まれるプロジェクト



## (2)「人が元気」につながるプログラム

「人が元気」につながるプログラムとして、2つのプログラム、7つのプロジェクトを計画します。

対応する キャッチフレーズ	人が元気		
目的	特定の人だけがいきいきするのではなく、三和で暮らす誰もが幸福を感じられるように。	主な対象者	三和町民
<b>プログラム</b>			
<b>Ⅱ. 子どもからお年寄りまで、誰もがいきいきできる町にしよう</b> 子ども、若者、保護者、壮年、お年寄りまで、いきいきと暮らすことができる地域へ。			
<b>プロジェクト</b>			
④三和の自然講習・生き物調査等実施	三和で育つ子どもたちと共に、三和の自然環境や生き物などについて学ぶ機会を用意。例えるなら地域学校（地域が運営する学び舎）。 最初の一手：開催時期と講師を決める		
⑤誰もが楽しく集まれる機会の創出	世代・性別問わず三和で暮らす誰もが、三和の中で楽しく集まれる機会を創り出す。“楽しい”が新たなアクションを生み出す土壌となる。 最初の一手：中心となる2, 3人を集め企画スタート		
⑥人材クラウドファンディング制度の確立★	地域内のマンパワーだけでは限界がある。町外のカモ借りながら、三和の活力を高める仕組み＝人材クラウドファンディングづくり。 最初の一手：人材クラウドファンディングの制度骨子具体化		
⑦地域と教育の連携・交流促進	学校教育においては地域とつながることが、より強く求められている。三和で育つ小学生・中学生を地域がしっかりと受け止め、地域と学校・児童生徒とが連携と交流できる環境づくり。 最初の一手：小中を含めた関係者での意見交換		

対応する キャッチフレーズ	人が元気		
目的	地方を自ら選択し移住する人が増えている。縁あって三和を選択した移住者が「良かった」と思える、知り合いを呼べる地域のあり方を。	主な対象者	移住者・応援隊
<b>プログラム</b>			
<b>Ⅲ. 移住者が溶け込みやすく、選んで良かったと思える町にしよう</b> 三和に可能性を感じて来る移住者を快く受け入れ、温かい地域づくりを。			
<b>プロジェクト</b>			
⑧空き家対策の一層の推進★	三和にある空き家、空き家候補物件等を調査・情報収集し、活用・流動化促進に向けた取り組みを推進するプロジェクトチーム（PT）を作る。 最初の一手：PT組織化（自治連との連携体制等検討）		
⑨定住希望者の受け皿づくり★	価値観が多様化する中、地方の暮らし、里山での暮らしを求める層が一定数いる。こうした定住希望者が円滑に三和町に移住できるように、暮らしに溶け込めるように、受け皿づくりと地域側の意識変革を促す。ネットワークの機能強化。 最初の一手：先輩移住者に対するヒアリングから実態把握		
⑩三和の教科書づくり★	UIターン等で移住後に、生活の中で困ることや気になることを予めまとめた「三和の教科書（仮称）」を作り、定住希望者に配布する。 最初の一手：教科書づくりPT立ち上げ		

### (3)「地域が元気」につながるプログラム

「地域が元気」につながるプログラムとして、2つのプログラム、7つのプロジェクトを計画します。

<b>対応する キャッチフレーズ</b>	地域が元気		
<b>目的</b>	常会・自治会の小規模化がさらに進むことを想定し、次の10年、20年と無理なく続けられる新たな「三和のカタチ」をソウソウする。中の論理だけでなく外部の力を活かすカタチを。	<b>主な対象者</b>	各種団体の役付き、応援隊
<b>プログラム</b>			
<b>IV. 10年先を見据えた「地域のカタチ」を考え、作っていこう</b> 地域力を高め、暮らしを支える仕組みを検討し、まず変革する一歩を。			
<b>プロジェクト</b>			
⑪青年団・青年部等若者コミュニティづくり★	三和全体または振興区単位で、若者が集まり、企画できるようなコミュニティを作る。 最初の一手：コアとなる青年層メンバーリストアップ、声掛け		
⑫新しい地域運営のあり方検討開始	★ 常会、自治会も小規模化が進行する状況を踏まえ、振興区が主要な役割を担う、10年先を見据えた「地域のカタチ」を考えることをスタートする。 最初の一手：検討の必要性を現役員等で共有するための研修、事例研究		
⑬三和地域ネットワーク協議会の活用・強化★	★ 既存のネットワーク会議の目的を再設定し、活用する。 最初の一手：ネットワーク会議で目的について語る		
⑭三和ふるさと応援隊との連携進化	★ 設立された応援隊の位置づけを明確化し、連携を強化。 最初の一手：応援隊窓口人材の明確化、協議		
⑮HP更新、情報発信	★ HP更新等を通じた情報発信。地域内外向けに。		

<b>対応する キャッチフレーズ</b>	地域が元気		
<b>目的</b>	三和に固有の資源を守り、伝えることができる仕組みを作る。人口減少が進む中でも継続できる仕組みを検討する。	<b>主な対象者</b>	自然資源・文化資源
<b>プログラム</b>			
<b>V. 三和固有の自然・文化を守り、伝えよう</b> 三和の自然や文化等地域の資源を守り、活用していこう。			
<b>プロジェクト</b>			
⑯三和の暮らしの技の伝承	三和で暮らす方たちが持つ「暮らしの技」（例：家庭菜園、草刈り等日々のノウハウ）をUIターン者等を始めとして、いろんな方に伝え、受け取る。 最初の一手：野菜づくりマスター、草刈りマスター等候補者リストアップ		
⑰地域資源（自然環境、農村風景、農村文化等）の維持・活用を市民参加型イベント化で実施	★ 各種地域資源の維持活用について、市民参加型イベント化、人材クラウドファンディング等の仕組みを構築。継続的に管理活用できる体制検討。 最初の一手：類似事例の情報収集、調査研究		

## 4. 実施・推進体制（案）

### （1）推進体制の構築・発展

本ビジョンを推進していくための体制は令和4年度から新たに構築します。実施・推進体制の構築にあたっては、現在の策定委員会のメンバーはそのまま「実行委員会」（仮）への移行を期待しているところです。実行委員会（仮）では、さらに新規のメンバー募集を行う見込みとなっています。

そうして増強されたメンバーで動いていくための推進体制イメージとして、3つのあり方を検討しています（下図）。

みわ地域としての推進体制は、パターンC（部会等を常設する形）を最終的に目指す体制として目標に据えた上で、まずはできるだけ参加してもらいやすいように、部会等を設置しないパターンAからスタートし、パターンBを経てパターンCに到達できるように進めていきます。

図 まちづくりビジョン推進体制イメージ（3類型）

	パターンA 部会を設置しない	パターンB 部会等を適宜設置する	パターンC 部会等を常設する
体制イメージ			
構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●委員長</li> <li>●監事（監査役）</li> <li>●事務局</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●委員長</li> <li>●監事（監査役）</li> <li>●事務局</li> <li>●部会/PTリーダー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●委員長</li> <li>●監事（監査役）</li> <li>●事務局</li> <li>●部会リーダー</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>●“ゆるいつながり”で組織が成立</li> <li>●興味関心の強いメンバーを中心とした動きになりやすい</li> <li>●責任等でガチガチに縛られにくい</li> <li>●ため、仲間に引き入れやすい</li> <li>●年間予算が限られる中、少数の事業に集中して成果を出しやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部会レベルでも、プロジェクトレベルでも数人の仲間で実行検討体制を作れる</li> <li>●部会を常設しないため、所属に縛られずに活動・会議等へ参加可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●部会を設置することで、事前に自分の部会の役割・ゴールを一定程度想定できる</li> <li>●部会を専門部会化することで効率的に活動できる</li> <li>●部会で一定の縛りが生まれるため離脱者は出にくい</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業・活動の主体がはっきりしないため、人任せになりやすい</li> <li>●興味関心の強いメンバーに引っ張られることになり、活動の幅が狭くなる可能性</li> <li>●縛りが弱く、離脱者が出やすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●興味関心の薄い事業、先が見えにくい事業はPTも立ち上がらない可能性</li> <li>●決裁権の事前の明確化が求められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所属部会以外のことへの関心が薄まる</li> <li>●縦割り意識が出る</li> <li>●幽霊部員を生みやすく、出席メンバーの意欲減退</li> </ul>

## (2) 参加しやすい会議手法

社会技術の進展も急速に進んでいることから、ICT ツールの積極的な活用・導入を行います。ICT ツールの活用は、本ビジョン策定においてもオンライン会議等の手法を導入するなどし、実践を積み重ねています。また自治会等においては連絡を LINE 等のツールを使ってやり取りをしているところもあることから、ますます加速させていくことで、連絡・調整等の手間と会議参加負担等が軽減されることが期待できます。さらに、子育て世帯の参画を促進していくためには、子ども連れでの会議参加が受け入れられる環境整備も求められます。例えばシッターさんを会議当日に配置し、会議中は別室でしっかりと見てもらえる環境づくりなどが考えられます。

## IV. ビジョン策定のプロセス

### 1. 策定委員会

策定委員会は、コロナ禍ということもあり、オンライン参加と会場参加のハイブリッド形式で会議を重ねました。三和町としてもこうした形式での連続した会議ははじめての試みとなりました。

#### ①策定委員（27名） ※敬称略

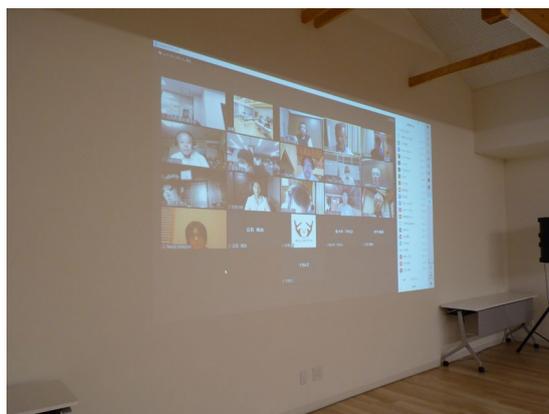
竹川易廣	谷川清壽	津島淳	片岡法生
細美好宏	秀吉拓代	森田和利	藤原洋子
片岡誠	佐藤義孝	佐々木雅啓	若林常雄
小川洋一	横光春市	重信好範	立花周治
行政直樹	生駒キクミ	池森和生	甲山聖人
馬場敦子	柄洋恵	荒川共生	荒川摩也子
阿部司苑	中村恵	越智英樹	

#### ②事務局（3名）

永岡祐也	藤原裕介	菊地彩也
------	------	------

### ③策定委員会開催経過

回数（開催日）	主な議題・論点・意見	課題
第1回策定委員会（8/20）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前期ビジョンの振り返り</li> <li>● 空き家の掘り起こし・活用</li> <li>● 移住者の抱える思い</li> <li>● コロナ禍における子どもたちの活動</li> </ul>	
第2回策定委員会（9/29）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前期ビジョンの仕分けの実施</li> <li>● 3つのコンセプトワード <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人と人との「つながり」</li> <li>■ 里山（自然）環境を活かす</li> <li>■ 一人ひとりの個性を尊重</li> </ul> </li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期ビジョンの仕分けに基づくスクラップ&amp;ビルド</li> <li>2. コンセプトワードと継承していく「3つの元気」との関連整理</li> <li>3. 具体策を出し尽くす</li> </ol>
第3回策定委員会（10/22）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前期ビジョンの仕分け結果を整理</li> <li>● 次期ビジョンのコンセプト（前回続）</li> <li>● 具体的なアクションの列挙</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本理念、キャッチフレーズとの整合</li> <li>2. ビジョンで示す計画内容について、どこまで伸びしろを持たせるか（どの程度までガチガチのプランとして策定するか）</li> </ol>
第4回策定委員会（11/12）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調査系（ヒアリング、アンケート）進捗</li> <li>● 前回の振り返り</li> <li>● ビジョンの全体構成について確認</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロジェクトの数が多く、実現可能か不安／多くて良い</li> <li>2. 「状態」が少しわかりにくい</li> </ol>
第5回策定委員会（12/10）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調査系進捗</li> <li>● 「ビジョン」とは</li> <li>● ビジョン骨子案について</li> <li>● ビジョンを推進していく体制イメージ</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジョンの推進体制が重要</li> <li>2. いくつかの表現等の修正</li> </ol>
第6回策定委員会（1/6）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調査系進捗</li> <li>● ビジョン骨子案について（グループワーク）</li> <li>● ビジョンを推進・実施していく体制づくりについて</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プログラムⅡ「子どもからお年寄りまで、誰もがいきいきできる町にしよう」については議論の積み残し</li> </ol>
第7回策定委員会（2/10）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プログラムⅡについて（グループワーク）</li> <li>● 推進・実施体制について</li> </ul>	
第8回策定委員会（2/18）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ビジョン案の承認について</li> </ul>	



▲オンラインでの策定委員会運営

## 2. ヒアリング調査

ID	属性	地域に対する思い	第3次ビジョンに期待すること	その他
01	40代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツをやりたい子がスポーツをできる環境を作りたい</li> <li>・もう少し外で遊べるような環境があるといい</li> <li>・三和町の中には公園のようなものがない  <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 借りるとお金がかかったり申込みが必要だったり使い勝手が悪い</li> </ul> </li> <li>・スポ少=人数がいれば活動にも参加していきたい</li> <li>・もう少し多くの人にグラウンドを使ってもらいたい  <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 整備施工はボランティアベースで、この状況は市も地域の人も知らないのでは</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが参加できるようなスポーツ、運動機会があると良い</li> <li>・コロナ禍における新しい運動会（競争ではない、楽しめる運動会）</li> <li>・元気な地域=子どもが外で遊んでいる様子が見える地域、人をよく見かける地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポ少とスポーツクラブは別もの</li> <li>・指導はボランティア頼み</li> <li>・子どもがスポ少に入っていない指導者には負荷がかかっている感もある</li> </ul>
02	40代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事参加は多い方</li> <li>・ビジョンの中の取り組みに参加したことはない  <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 賛同できるものがあれば一緒にやりたい</li> </ul> </li> <li>・移住希望者への発信は大事</li> <li>・他方、いま住んでいる人たちへの目線が必要</li> <li>・情報源がバラバラ（高齢者にはここ、女性はここ、子育てはここ、など縦割りの）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう1段階若い世代へのアプローチができないか</li> <li>・地域行事だと若い人も出てくるのに、こういう取り組みだと出てこない</li> <li>・子連れでの会議参加がしにくい空気感がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地内同居だと配布物は1世帯分のみが多く、本当に情報が行き渡っているかは疑問</li> </ul>
03	50代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈りは夏場などは2週間置かない間でやらないといけないが、達成感を楽しみながらやっている</li> <li>・地域でスポーツが続けられるような環境であってほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移住しようと思っても水の条件が悪いため断念する人もいる→上下水道の整備が課題</li> <li>・空き家対策をしっかりとやってもらいたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東城の〇〇カードが良い事例（高齢者の行動履歴がわかるもの／ほ・ろ・かカード？）</li> <li>・施設修繕要望は優先度低く、なかなか修繕されない</li> </ul>
04	70代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山という言葉はきれいだが現実には草刈りとの戦い</li> <li>・千本桜がもったいない（もっとできることがある）</li> <li>・若い人が増えないと駄目  <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; そのために稼げる農業</li> </ul> </li> <li>・空き家は人の資産なので口出しできない</li> <li>・水の環境に課題</li> <li>・小学校の統合は絶対に阻止しなければ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合併前の三和町はいきいきしていたが…</li> <li>・教育の質の確保</li> <li>・地域に古墳がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは同級生ネットワークで、三和町の情報をよく知っている</li> <li>・ふるさとの広報誌配布したら、地元の人以上に他出した人はよく読んでくれた</li> </ul>
05	70代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の取り組みは続けていきたい</li> <li>・60～70代を中心としたサロンを開設したい</li> <li>・5年後には常会等で分けて、コミュニティで一つになるのが良い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り／現在やっており、大事にしている</li> <li>・お隣同士の助け合いなどが「今は」あるので大丈夫だが、崩れ始めると心配</li> <li>・お年寄りには家からの外出を促すことが大事  <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 移動支援が重要で、財源支援があるといい</li> <li>&gt; どこにでも連れて行ってあげたいが、万が一のリスクを考えると難しい</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいの会で資金があった時、子ども+保護者をやったこともある</li> <li>&gt; 子どもは忙しくてなかなか参加できないこともよくある</li> </ul>

ID	属性	地域に対する思い	第3次ビジョンに期待すること	その他
06	70代	<ul style="list-style-type: none"> <li>かつての地域は賑やかな地域だった（店舗数多く、土曜夜市などもあった）</li> <li><b>若者が帰ってくるような取り組みが必要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>＞若者が楽しめる環境づくり</li> <li>＞起業の勉強会など</li> </ul> </li> <li><b>三和応援隊があるが、参加してもらえない背景は？</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>＞来てもらってもこちらから挨拶しないような雰囲気ではだめ</li> </ul> </li> <li>人づくりがとても大事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>子ども目線の取り組み</b></li> <li>都市農村交流事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>＞疎開保険のようなもの</li> </ul> </li> <li>空き家は地域が費用負担しながらまずは都市部の人の滞在拠点のような使い方からやってはどうか</li> <li><b>Iターン者＝風の人を大事にしないといけない</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>＞定期的な交流を持つことが必要</li> </ul> </li> <li>6次産業化の可能性</li> <li><b>公共施設の活用</b>（学校の空き教室など）</li> <li>防災の仕組み強化</li> <li>空き家を活用したシェアハウス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つの無駄（心の無駄、時の無駄、モノの無駄）の排除</li> </ul>
07	60代	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化が進み、空き家の増加傾向にあるので、<b>空き家が減るような地域</b>になってくれるといい</li> <li>若い世代が増えると嬉しい</li> <li>自分はあと10年くらいはできると思うがその後は心配 <ul style="list-style-type: none"> <li>＞田んぼの守りなど不安</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>家族、孫が帰りやすい地域、というのが良い</b></li> <li>仰々しく「行事」にすると気を使って参加しにくくなるので気を使わずに参加できるような場が作れるといい</li> <li><b>移住者等を受け入れる側の意識変革も必要</b></li> <li><b>消防団や神楽団等々の団体への参加や寄付は義務ではないことを明確にしてあげることが大事</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>＞場合によってはルール自体を変えることも考えていく必要がある</li> <li>＞ルールを変えられないなら事前に伝えることが必要</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の帰属意識は大字単位</li> <li><b>できあがっている仲間グループがあると、そこに入れないと疎外感が強く感じられる</b></li> </ul>

太字：ビジョン策定委員会にて検討していること、関連すること、取り込める余地があること

赤字：特に重要と考えるポイント（緊急性は問わない）

■ヒアリング調査で得られた意見／アイデア

子どもが外で遊べる環境	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなが参加できるスポーツ機会</li> <li>新しい運動会</li> <li>公園等の利用しやすさ改善</li> </ul>
若い世代へのアプローチ	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地内同居世帯等へのアプローチ</li> <li>子連れでの会議参加しやすい環境づくり</li> </ul>
既存施設等の活用対策	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家対策</li> <li>上水の整備</li> <li>公共施設・公共空間（学校空き教室等）活用</li> </ul>
移住者受け入れ	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報源がバラバラ</li> <li>内輪ノリによる疎外感</li> <li>受け入れ側（地域）の意識変革</li> </ul>
情報発信・伝達	➡	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報源がバラバラ</li> <li>応援隊への広報誌等配布</li> </ul>

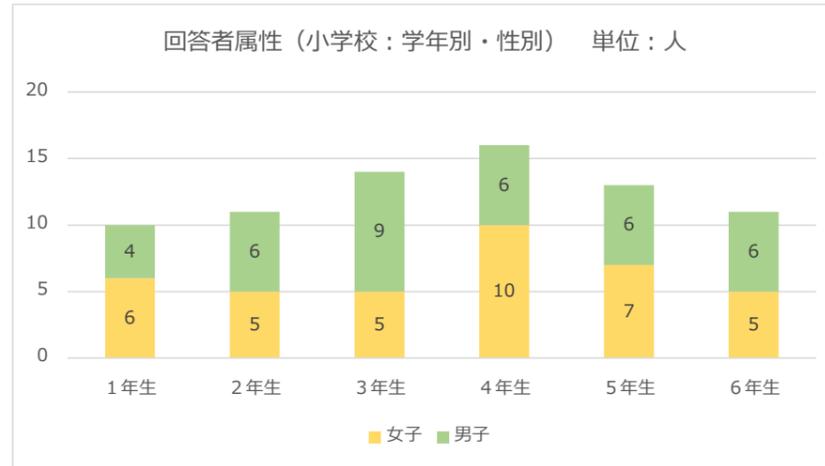


### 3. 小・中学校アンケート調査

#### 小学生アンケート調査結果（概要）

##### I. 学年・性別

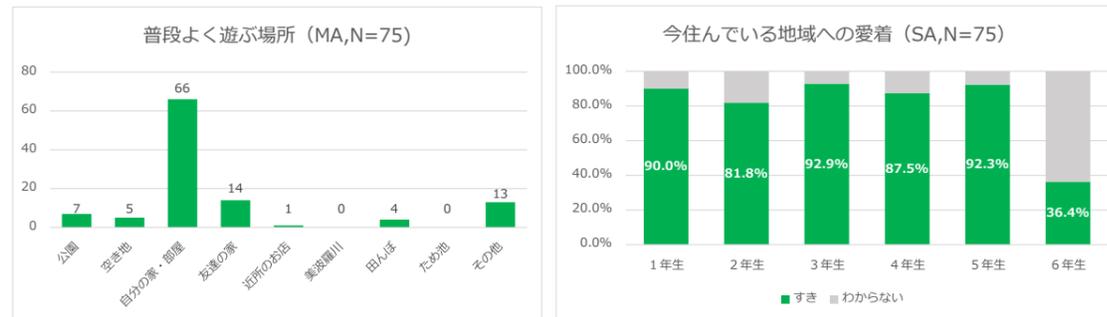
小学生75人が回答してくれました。学年別・男女別の人数は下のグラフのとおりです。



##### II. よく遊ぶ場所／地域への愛着

普段よく遊ぶ場所のトップは「自分の家・部屋」（88%）でした（左下グラフ）。オンラインゲームが主流となり、自宅・自室に居ながらにして、友達とコミュニケーションが取れる特徴が表れています。

自分が住んでいる地域の愛着について「好き」「嫌い」を聞きました。6年生で「好き」と回答した割合が下がり、「わからない」が増えています（右下グラフ）。



MA（Multiple Answer）＝複数回答 SA（Single Answer）＝単一回答  
N＝回答者数

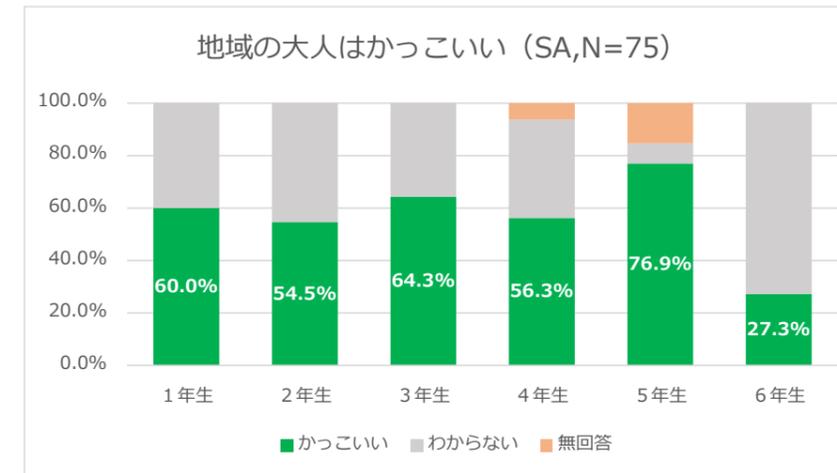
##### V. 三和をイメージする色

三和を「色」で表現したら何色かを聞きました。もっとも多かったのは「みどり」で、72%の児童が回答しました。

みどり	54
あお	12
きいろ	9
あか	8
みずいろ	7
きみどり	6
オレンジ	4
ピンク	4
しろ	4
くろ	3
ちゃいろ	2
むらさき	1

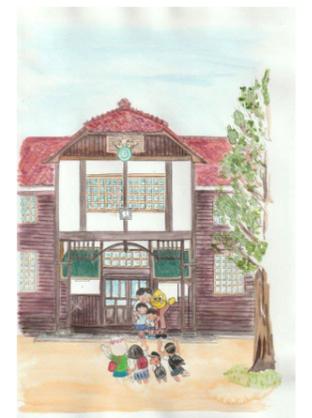
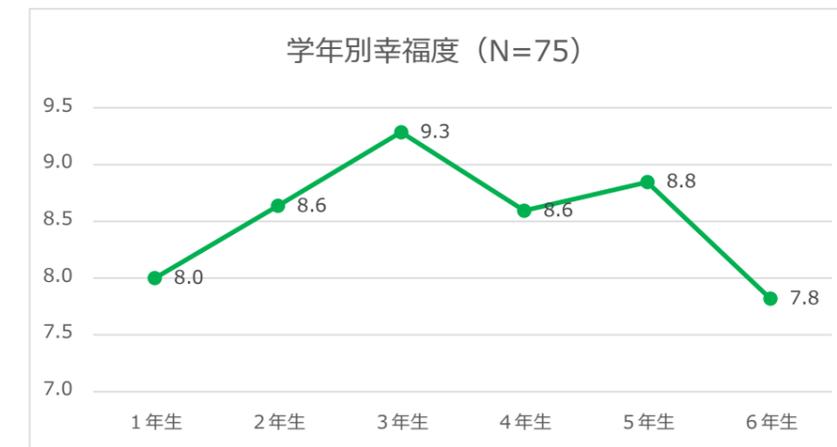
##### III. 大人への眼差し

地域行事・イベントに携わる大人の姿をカッコいいと思うかを聞きました。1～5年生では過半数の児童が「カッコいい」と感じています。



##### IV. 幸福度

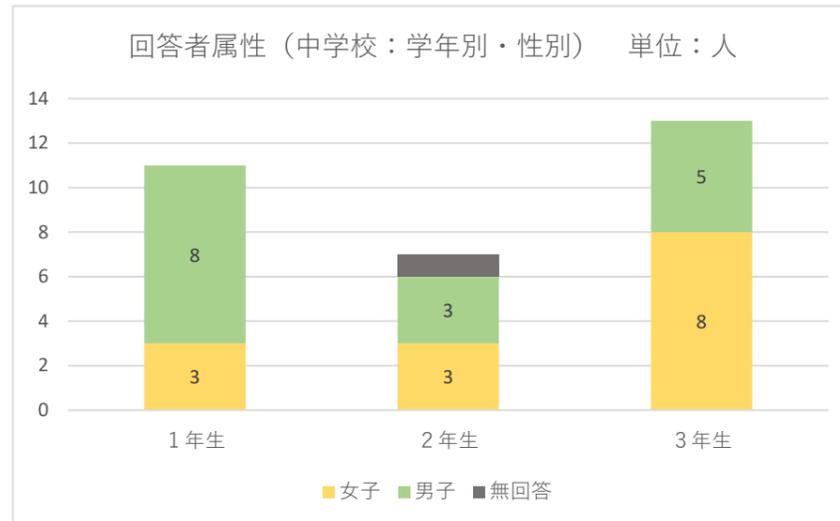
地域での生活について、10点満点での幸福度を聞きました。全体の平均で8.5点と高い幸福度を感じていることがわかりました。学年別にみると、下のようなグラフの結果となりました。また、この他にも「地域の愛着」と関連を見てみると、「地域が好き」と回答した児童と「わからない」と回答した児童では、幸福度の平均点が2.4ポイントも違っていました。（地域が好きと回答した児童の平均幸福度は9ポイントで、わからないと回答した児童の平均幸福度は6.6ポイントという結果でした）



## 中学生アンケート調査結果（概要）

### I. 学年・性別

中学生31人が回答してくれました。学年別・男女別の人数は下のグラフのとおりです。



### II. よく遊ぶ場所／地域への愛着

普段よく遊ぶ場所のトップは小学生と同様に「自分の家・部屋」（54%）でした（左下グラフ）。他方、「友達の家」の回答割合は小学生よりも高く28%となり、年齢があがるに連れて行動範囲が拡大していることが伺えます。

自分が住んでいる地域の愛着について「好き」「嫌い」を聞きました。1年生では「好き」と回答した割合が9割ですが、2年生、3年生と「好き」の割合が減っています（右下グラフ）。



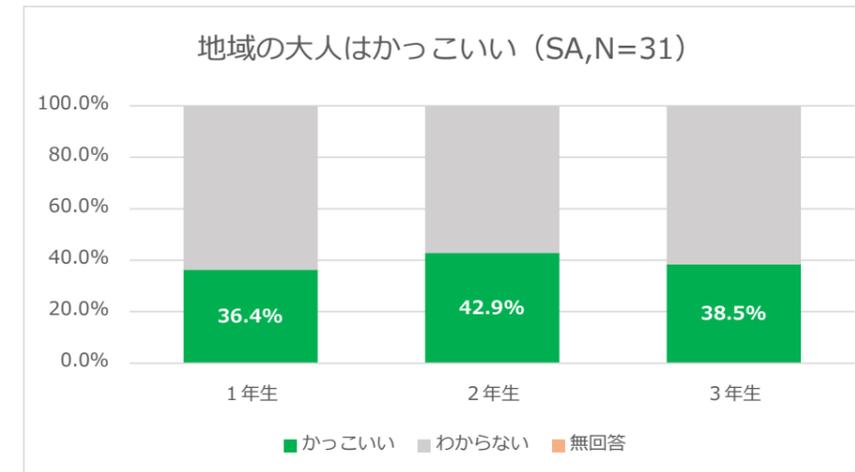
### V. 三和をイメージする色

三和を「色」で表現したら何色かを聞きました。もっとも多かったのは「みどり」で、43%の生徒が回答しました。

みどり	21
きいろ	5
ピンク	5
あお	4
オレンジ	4
ピンク	4
みずいろ	3
きみどり	1
さくら色	1
にじいろ	1

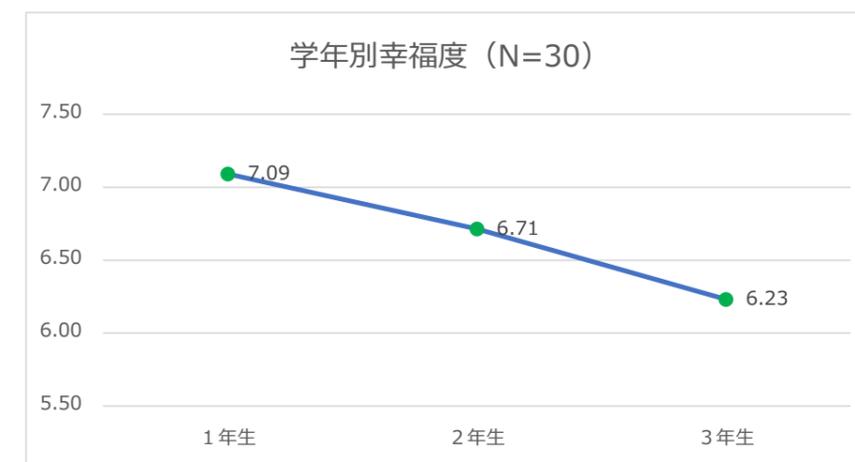
### III. 大人への眼差し

地域行事・イベントに携わる大人の姿をカッコいいと思うかを聞きました。「カッコいい」と回答したのは全学年共通して4割前後となり、小学生よりも低い値となりました。



### IV. 幸福度

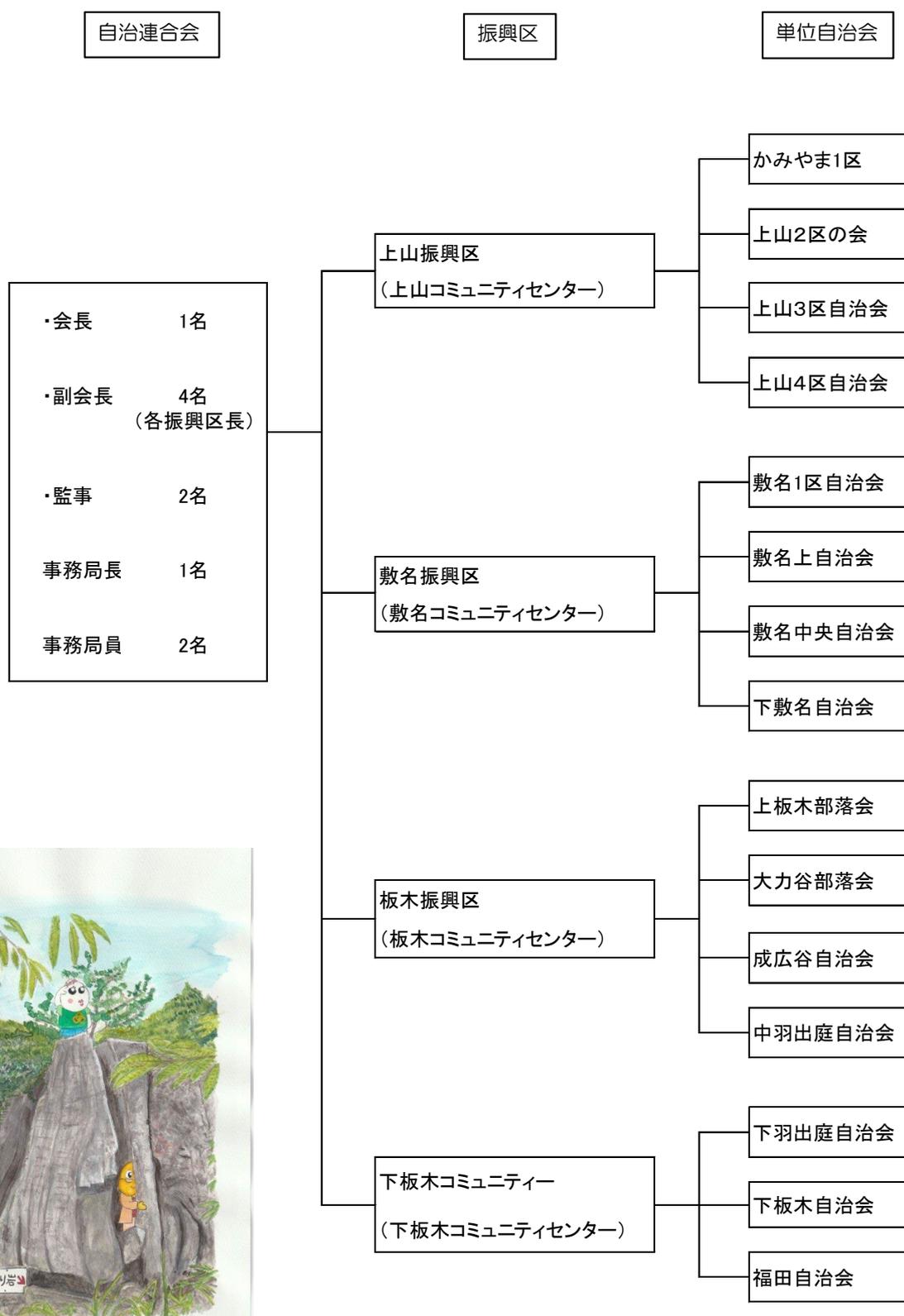
地域での生活について、10点満点での幸福度を聞きました。全体の平均で6.9点と小学生と比較すると低い幸福度であることがわかりました。学年別にみると、下のようなグラフの結果となりました。また、この他にも「地域の愛着」と関連を見てみると、「地域が好き」と回答した生徒と「わからない」と回答した生徒では、幸福度の平均点が2.5ポイントも違っていました。（地域が好きと回答した生徒の平均幸福度は8.1ポイントで、わからないと回答した生徒の平均幸福度は5.6ポイントという結果でした）



## V. 三和町自治連合会組織図

### 1. 三和町自治連合会組織図

三和町自治連合会組織図





表紙デザイン（初稿）

イラスト：行政豊彦



● 三和町自治連合会 / みわ地域まちづくりビジョン策定委員会 ●